

「清算機関の統合に関する実務者検討会」の議事要旨（第二回）

開催日時：平成 13 年 5 月 16 日（水）14:30-16:00

場 所：日本証券業協会 第一会議室

主な議題：（１）市場運営者側からの回答（基本機能の確定を中心として）
（２）第二フェーズ（システム・規則等の詳細な検討）の進め方について
（３）本会の情報開示の仕方について

議事要旨

はじめに、今回から本実務者検討会に参加メンバーの変更があり紹介が行われた。
続いて、本日の議題について意見交換を行った。

（１）市場運営者側からの回答（基本機能の確定を中心として）

参加者から出された主な意見の概要は以下の通りである。

- ・ 基本的には議論していくことは良いことだと考えるが、新清算機関が利用者にとって利便性が高く効率的なサービスを提供し続けるには、「人」「物」「金」の全ての中立性が維持され革新性が確保されていなければならないという点には十分留意いただきたい。
- ・ 総論は前回賛成頂いていると認識している。各委員からの懸念事項は第二フェーズで詰めていく必要がある。
- ・ 前回の提案内容・趣旨・ストリートサイドにおける必要性については異議のないところである。運営者側にとっても清算機能のアウトハウス化は大きな決断であるが証券界として決済改革に取り組むべき。

基本機能の確定については、第二フェーズの中でさらに明確にしていくこととなった。

（２）第二フェーズ（システム・規則等の詳細な検討）の進め方について

参加者から出された主な意見の概要は以下の通りである。

- ・ 規則・システムについて詳細に詰め課題の洗い出しを行うフェーズと考えている。基本は市場運営者側が中心となって議論頂くのが筋である。
- ・ 基本運営者側で議論だが、密室の議論にならないよう開かれた状態で進捗が皆に分かるようにするのが肝要。
- ・ 証券会社も運営者側と同様システム対応を行っている。一般振替 DVP、T+1 に向けて同時に進めていかなければならない。他に進んでいる制度改革と 2 人 3 脚で進めていくワーキングパーティが出来れば良い。清算機関の議論単独で動けるも

のではない。

- ・ 基本機能の確定が大事だが、DVP との連動の話等とリスク対策、会社の運営とは切り離して議論できるのではないか。切り分けについては柔軟に行っていったらどうか。
- ・ 運営者側でやるべき事が多いがユーザーサイドへの影響も大きい。定期的な報告を行い、案件によっては入って頂いて議論して頂きたい。

第二フェーズの進め方としては、市場運営者中心として進めていただき、証券会社も何社かがオブザーバー的に参加する。月に一度は実務者検討会を開催し検討状況を開示していただくという形で進めることとなった。

(3) 本会の情報開示の仕方について

参加者から出された主な意見の概要は以下の通りである。

- ・ 開示方法としては web が一般的なもので、協会のホームページを中心に掲載し、市場運営者側のホームページに掲載する際も、内容に齟齬のないよう同じものが掲示できれば良いのではないか。
- ・ 清算機関の設置が決定した訳ではないので、その点、マスコミをミスリードすることのないよう十分注意が必要。

結果、協会のホームページ上に設けられている決済制度改革懇談会という項目の中で掲載することとする。掲載に当たっては事前に検討会参加者に回覧することで問合せがあった際に回答内容に齟齬がでないようにする。

最後に、この会の位置付けについて明確するべきとの意見が出たが、現段階では議論する必要はなく必要な状況になったら議論することとした。もっとも、「DVP 決済方式の推進と清算機能の活用等に関するワーキング・グループ」での議論が設置の端緒となっていることもあり、成果物の報告は同ワーキングへ行う必要があるとして今回の会合は終了した。

今後の予定

第二フェーズの頭出しを運営者サイドで議論していただくこととなった。

以上